

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり中庄(非重心 児発)		
○保護者評価実施期間	R7年12月9日		R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	R7年12月19日		R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所内の専門職等と連携し、児に応じたアセスメントや支援を組み立てる事が出来ている。	重心クラスが併設していること、児童発達支援センターが同建物内にあることにより、保育士や児童指導員だけでなく、OT、PT、ST、心理担当職員とが連携し、利用児にとって必要な取り組みを検討している。	助言を受けたものに対して日々の支援に活かしていくことや、保護者の方にフィードバックしていく。
2	日々の支援内容について、連続性を持ち児の変化を追うことが出来ている。	利用児に合った支援内容を組み立てる事や集団活動の中では月ごとにねらいを決めて、回数を重ねることによりどのように変化したかを意識して取り組むようにしている。	所属先のある利用児さんが多い中で、小集団で苦手な部分に取り組み、自信に繋がれるように活動の運営を行っている。
3	定期的な懇談や相談支援専門員との情報共有、園訪問を通して利用児の姿を全体的に捉えるようにしている。	定期的な所属先を訪問し所属先での利用児の様子を見たり、個別支援計画の更新前には懇談を行ったりする中でご家族の思いを聞き取るようにしている。	利用児の意思も聞き取ることが出来るように、職員のアセスメント力の向上を行っている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちと交流する機会が少ない。	利用児の多くが所属先(地域のこども園や保育園、幼稚園)がある児であり、平時より子ども同士の関わりが持たれている。 近隣園までの距離があり、徒歩などでは行くことが出来ない。	敷地内の小規模保育園のお子さんたちとの交流する機会を設ける。地域の公園等に出向くなどし、事業所内で支援が完結しないようにしていく。
2	施設の老朽化により、清潔さや安全性が不十分である。	前庭等が一部雨ざらしになっている部分では木が朽ちている箇所が見られている。	同敷地内の児童発達支援センターと一緒に安全対策を講じ、保修や入れ替え工事等を予定している。
3			